

1 忍者関連歴史資源及び甲賀市の観光の現状

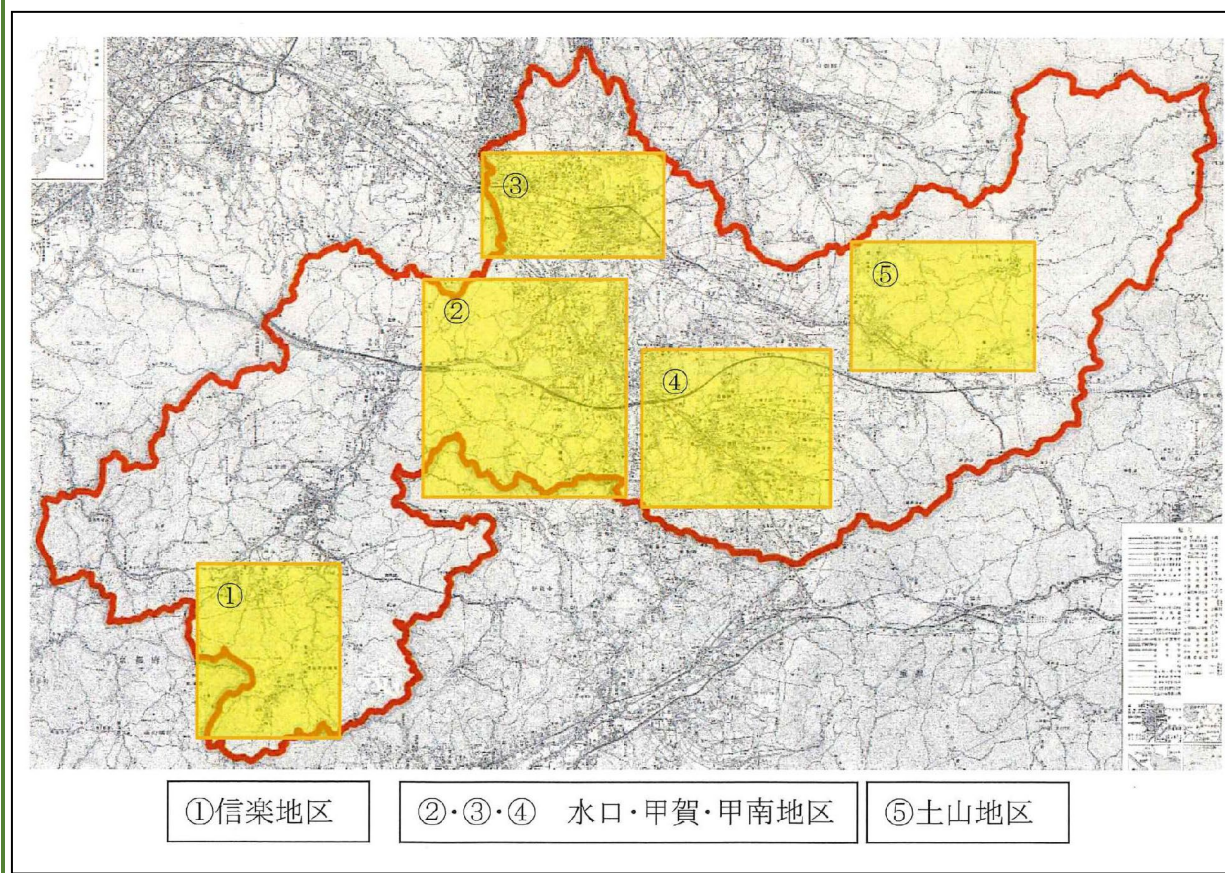
(1) 忍者関連歴史資源

① 日本遺産の位置

甲賀流忍者に係る歴史・文化資源は日本遺産のストーリーである「忍びの里 伊賀・甲賀ーリアル忍者を求めてー」に詳しく掲出されており、以下にその概要を掲出する。

日本遺産「忍者」の構成文化財の数が多いのは②、④の地区であり、竜法師地区は②の地区に含まれている。

【図 日本遺産に係る甲賀市の地区区分】



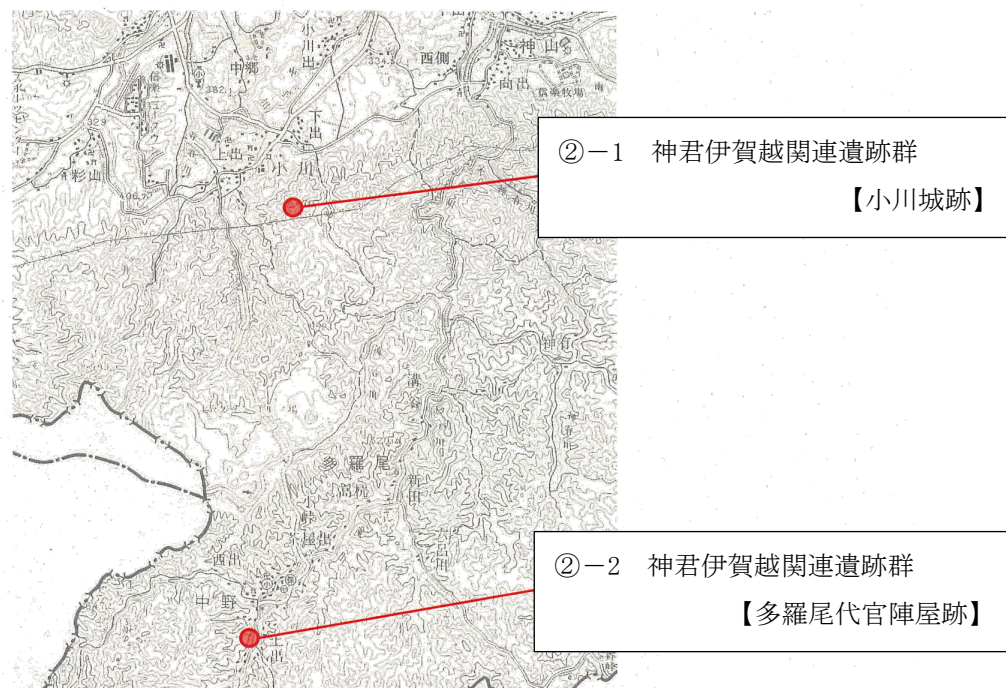
資料：「忍びの里 伊賀・甲賀ーリアル忍者を求めて」

② 日本遺産分布図

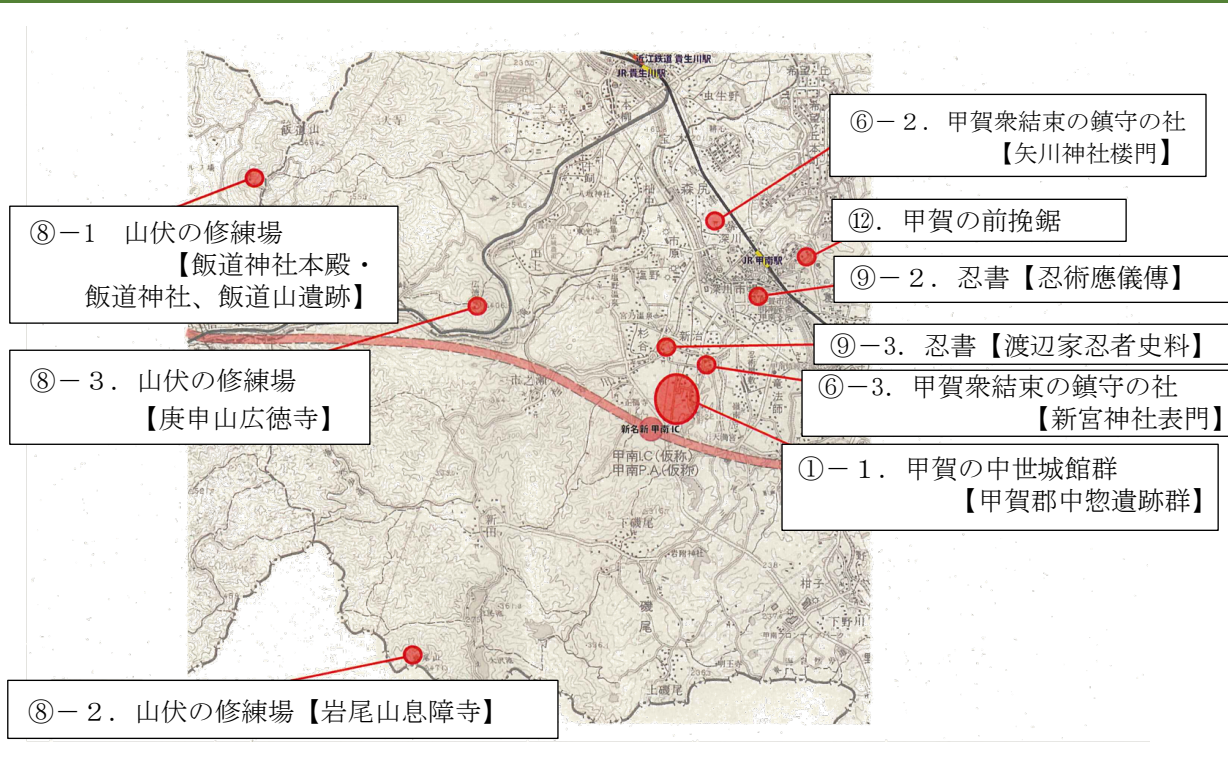
日本遺産のストーリーである「忍びの里 伊賀・甲賀ーリアル忍者を求めてー」における各地区の文化財位置を表示すると以下のとおりである。

【図 日本遺産分布図】

分布図①【信楽地区】

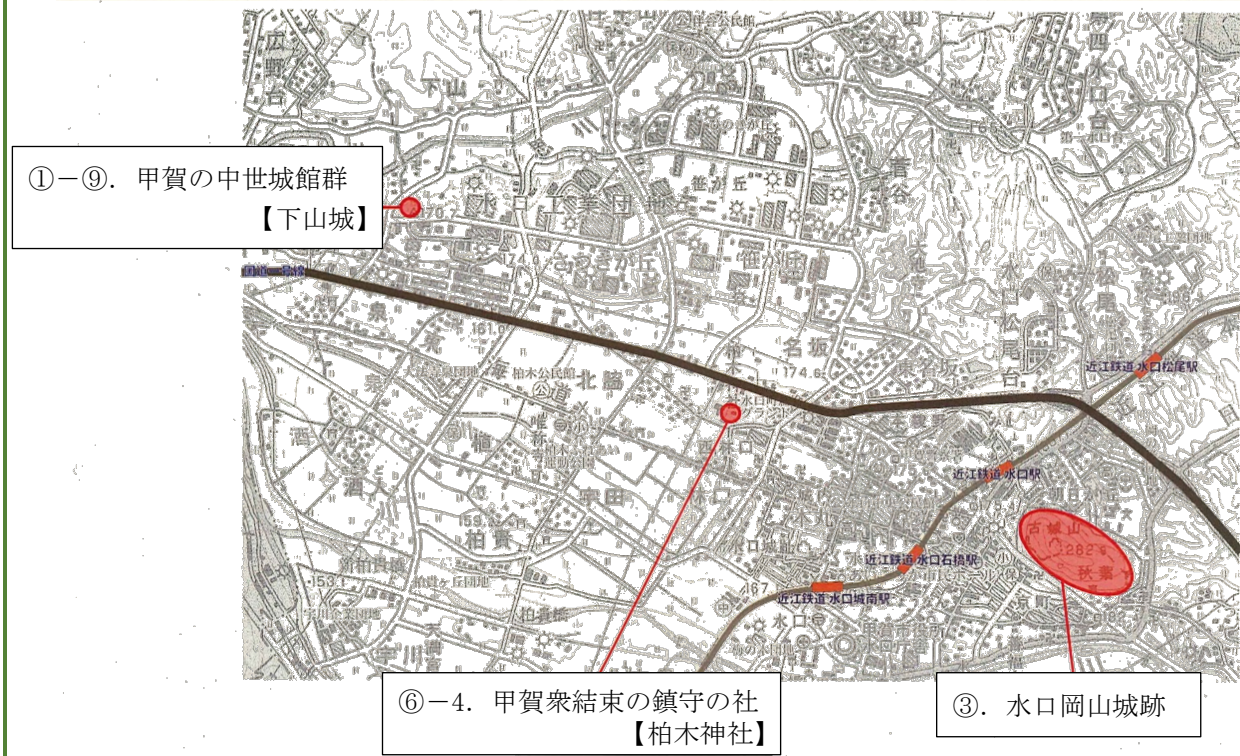


分布図②【甲南・水口・信楽地区】

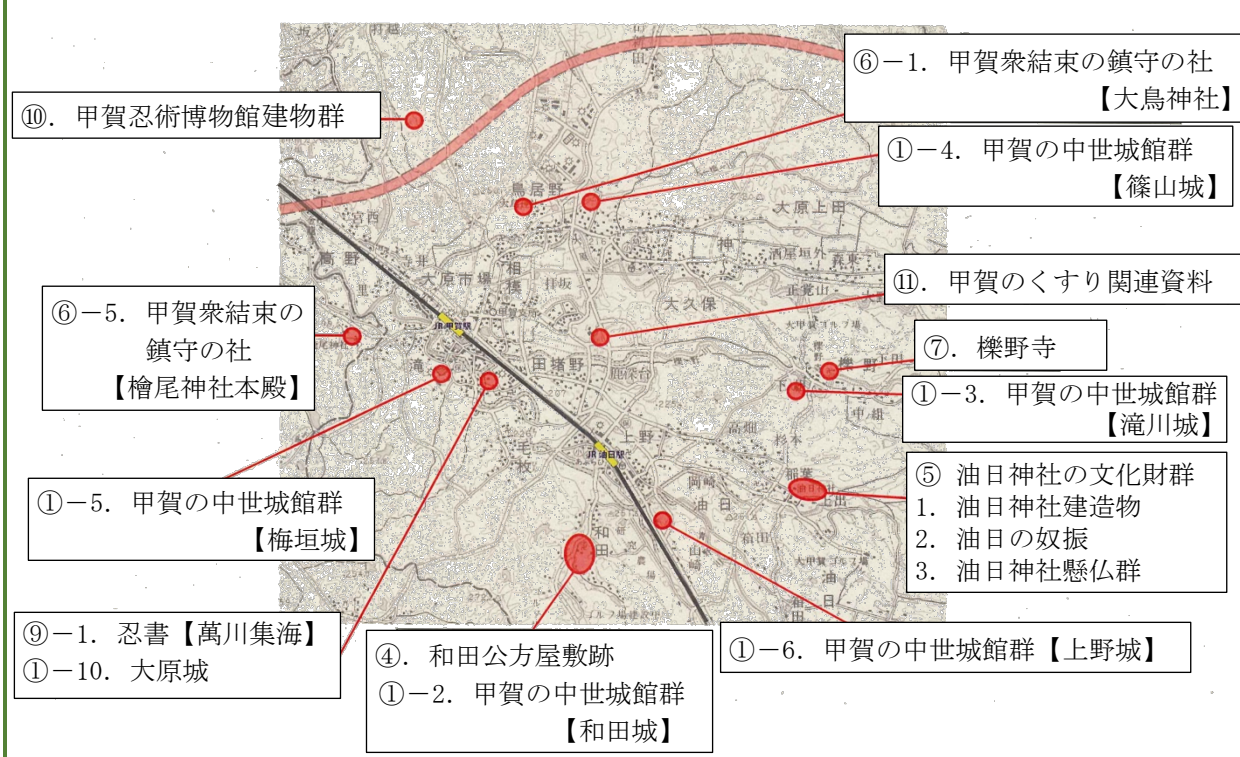


資料：「忍びの里 伊賀・甲賀ーリアル忍者を求めて」

分布図③【水口地区】

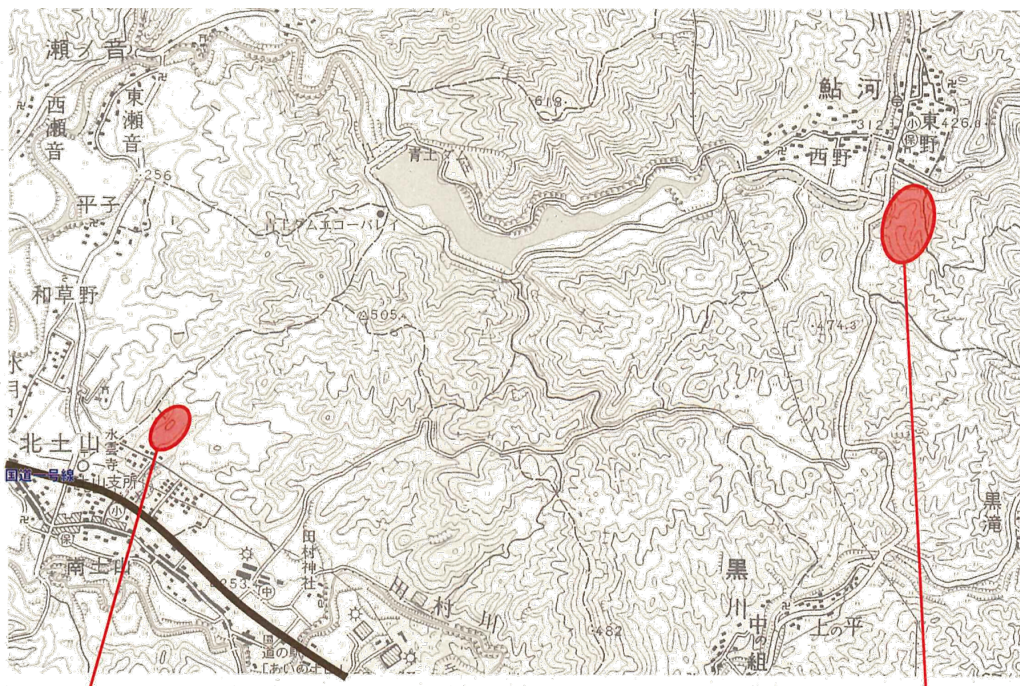


分布図④【甲賀・甲南地区】



資料：「忍びの里 伊賀・甲賀ーリアル忍者を求めて」

分布図⑤【土山地区】



①-7. 甲賀の中世城館群【土山城】

①-8. 甲賀の中世城館群【黒川氏城】

資料：「忍びの里 伊賀・甲賀ーリアル忍者を求めて」

【表 ストーリーの構成文化財一覧表】

番号	文化財の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ	文化財の所在地
①	甲賀の中世城館群	国指定史跡 (1 甲賀郡中惣遺跡群) 市指定史跡 (2 和田城 3 滝川城 4 篠山城 5 梅垣城 6 上野城) 未指定 (7 土山城 8 黒川氏城 9 下山城 10 大原城)	戦国時代の甲賀は強大な大名がいないため、特別におおきな城はなく、また地侍たちの性格もよく似ていたため、同じ大きさ同じ形の城がひしめきあっていた。地侍たちは互いに連携し、共同で地域を治めていた。 いずれも一辺 50m程の方形の土塁で囲まれ、空掘りを巡らせた土造りの城である。	滋賀県 甲賀市
②	神君伊賀越え 関連遺跡	県指定史跡 (1 小川城跡)	神君伊賀越えの際に、徳川家康一行が宿泊したと伝えられる多羅尾氏の居城。	滋賀県 甲賀市
		市指定史跡 (2 多羅尾 ^{たらお} 代官陣屋跡)	江戸時代を通じて代官を勤めていた多羅尾氏の役所跡で、石垣や庭園跡が残る。多羅尾家は家康の神君伊賀越えの際に、家康を護衛した功績により、その後、幕末まで代官に取り立てられた。	
③	^{みなくち} 水口 岡山城跡	国指定史跡	天正 13 年、羽柴秀吉の命で築城された山城で、この城の築城によって甲賀衆たちによる自治の時代は終焉を迎え、織豊期という新たな時代の幕開けとなった。	滋賀県 甲賀市
④	^{わだくぼう} 和田 公方 屋敷跡	市指定史跡	甲賀の複雑な地形と勇猛な甲賀衆が守っていたこの地は、時の権力者の格好の潜伏地となった。 永禄 8 年、甲賀の和田惟政の手引きにより、奈良の一乗院を脱出した覚慶（室町幕府最後の将軍足利義昭）が一時滞在した場所である。	滋賀県 甲賀市

資料：「忍びの里 伊賀・甲賀ーリアル忍者を求めて」

番号	文化財の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ	文化財の所在地
⑤	あぶら ひ 油 日神社の 文化財群	国指定重文 建造物 (1 楼門・ 回廊・本殿) 国指定史跡 (境内地：甲賀 郡中惣遺跡群)	油日神社は、甲賀衆たちが崇敬した甲賀の総社であり、聖徳太子を戦に勝つための軍神として崇めた。廻廊は、甲賀衆の合議の場で、本殿は多くの侍衆たちが力を合わせて寄進したものである。	滋賀県 甲賀市
		県選択 無形民俗 (2 油日 の奴振)	油日神社に5年に一度奉納される行事で、豪華な衣装を身につけた奴が登場する。この行事は甲賀衆であったかつての上野の惣領が奴を伴って油日神社に社参するというもの。	
		市指定 (3 油日神の 懸仏群)	油日神社では聖徳太子を軍神と崇め、摩利支天などが信仰され、それらが懸仏として残っている。摩利支天は忍術秘伝書の中に、隠形の術として呪文とともに載せられ、忍者の守護神でもある。	
⑥	甲賀衆結束の 鎮守の社	国登録文化財 建造物 (1 大鳥神社 楼門、拝殿、 中門、他)	大鳥神社は、この地の甲賀衆大原氏の氏神で、毎年8月3日に今も大原一族が氏神の前に集まり、大原同苗講が続けられている。	滋賀県 甲賀市
		県指定文化財 建造物 (2 矢川神社 楼門) 国指定史跡 (境内地：甲賀 郡中惣遺跡群)	元亀元年矢川神社の門前で、甲賀衆の自治組織である甲賀郡中惣によって、争いごとの解決が行われた。矢川神社は甲賀衆の合議の場であり、集会場でもあった。	滋賀県 甲賀市
		国指定重文 建造物 (3 新宮神社 表門)	新宮神社の表門は文明17年に建てられた茅葺の八脚門である。新宮神社は、自治組織である甲賀郡中惣の活動の実態が知れる最初の記録にその名がみえる。	滋賀県 甲賀市
		未指定 (4 柏木神社)	もとは若宮神社と称し、水口柏木地域の伊勢神宮荘園の総鎮守で、地域の甲賀衆から信仰を集めた。	滋賀県 甲賀市
		県指定文化財 建造物 (5 檜尾神社 本殿)	甲賀衆の一人、池田氏の氏神として信仰された神社で、宝永3年に再建された極彩色の社殿には、天正8年池田信輝による本殿再建の際の棟札が残る。	滋賀県 甲賀市

資料：「忍びの里 伊賀・甲賀ーリアル忍者を求めて」

番号	文化財の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ	文化財の所在地
⑦	櫟野寺 らくや	国指定重文 県指定、 市指定 (彫刻)	櫟野寺は天台宗布教の拠点寺院で 仏像の宝庫であり、本尊木造十一面 観音坐像は重文坐像としては日本 一の大きさを誇る。	滋賀県 甲賀市
⑧	山伏の修練場	国指定重文 (飯道神社本殿) 市指定史跡 (1 飯道神社、 飯道山遺跡) 未指定 (2 岩尾山 息障寺 3 庚申山 広徳寺)	近江屈指の修験霊場である飯道山 には今も累々と石垣で囲まれた寺 院跡が残り、極彩色に彩られた飯道 神社本殿が建つ。岩尾山や庚申山な ど巨岩が屹立した甲賀三山は山伏 の行場であるとともに、甲賀忍者の 修練場と伝わる。	滋賀県 甲賀市
⑨	忍書 ばんせんしゅうかい (萬川集海) にんじゅつおうぎでん (忍術應儀傳) (渡辺家忍者史料)	市指定書跡 (1 萬川集海) 未指定 (2 忍術應儀傳) 未指定 (3 渡辺家史料)	甲賀・伊賀の国境を拠点とした藤 林保武が著した忍術秘伝書が萬川 集海であり、伊賀、甲賀流忍術が集 大成されている。 忍術應儀傳は忍家望月家に伝えら れ、聖徳太子と忍術の由来を説き明 かしている。 渡辺家には江戸時代、尾張藩に仕 えた甲賀忍びの史料が残り、甲賀忍 者が得意とした火術や兵法など甲 賀忍者の働きを知ることができる。	滋賀県 甲賀市
⑩	甲賀忍術博物館 建物群	未指定 (1 旧岡田家 2 旧望月家 3 旧藤林家)	旧岡田家は甲賀町隠岐から移築し た民家で、忍者の道具が展示され、 旧望月家座敷は、甲南町柑子から移 築し、中二階や隠し階段が施された 医薬に携わった家である。旧藤林家 は、忍術秘伝書「萬川集海」の編者 の一族の家屋で、からくり屋敷とし て公開されている。	滋賀県 甲賀市
⑪	甲賀のくすり 関連資料	未指定	かつては山伏たちが、諸国に配札 の際に、土産として持ち歩いたのが 甲賀売薬の起源と伝わる。甲賀、伊 賀流忍術の中に、火薬の製法や薬に 関する記述が多いのも、山伏の薬草 の技術、知識が活かされたものであ り、今日の配置売薬の礎となった。	滋賀県 甲賀市
⑫	甲賀の前挽鋸 まえびきのこ	国指定 重要有形 民俗文化財	甲賀、伊賀は奈良時代より東大寺 の杣地として良材を産出し、近代に は大型の製材鋸、前挽鋸の産地とな った。 甲賀、伊賀はこうした山林従事者 が多くおり、山野を相手にした生業 が忍術にも影響を与え、戸を開け るための忍具にも様々な形状のノ コギリが登場する。	滋賀県 甲賀市

資料：「忍びの里 伊賀・甲賀ーリアル忍者を求めて」